

目誌用

電報

一九〇〇發
一九〇〇受
點

猛部隊參謀長

昭和十七年七月

通電先 次長剛

猛参覽第八一五號

第三航空情報隊部員矢部少佐ノ偵察ニ依レバ「ウリシゲ」
レキス「間」現兵力（道路隊二隊、土人四〇〇名）ヲ以テ補修ヲ
續行セバ八月下旬自動車部隊ノ運行可能ナリ 但シ降雨後一二乃至
二四時間部隊運行ヲ許サズ、尚河川ノ積水ニ米ニ及ビ流木アラバ河
幅五〇米以上ノ諸橋梁流失ノ虞大ナリ

(終)

0004

第二課

至急極秘至急 作戰緊急

昭和 一八、一、六

電 報 一、五、一四一〇 登
一六二〇 著

一、五、一六五〇 受付
一八一五 点檢

通電先、次長、剛基、猛戰司、猛部隊參謀長

猛參電第四九號

「グンビ」岬附近ニ上陸セル敵ニ對シ中井支隊ハ約

一大隊半ヲ「バア」ニ集結セシメ爾後ノ攻撃ヲ準

備中ナリ

ニ在「マラグン」歩兵第二百三十九聯隊第三大隊（二中

隊缺）ハ「インデリ」警備中隊ヲシテ搜索據點

ヲヒリアウレ方面ニ進メ敵情ニ索中ニシテ主力
ハ依然現陣地ヲ強化中

(終)

0006

3

第二編



電報

一三〇

昭和一八
一〇〇五
三〇五
四〇〇
一〇〇
五九
點

昭和一八
一〇〇五
三〇五
四〇〇
一〇〇
五九
點
兵總複寫

猛參電第五八七號

兵站總監部參謀長 宛

猛 部 隊 參 謀 長

大本營ヨリ未ダ何等ノ通報ナキモ第五十一師團ヨリノ報告ニ依レバ該師團方面ニ殘置セルモノノ中自動車類一切ヲ第二十三軍ニ移管セシメラルル趣ナルモ騷擾ナラバ自動車ヲ引上ゲラレタル輜重兵第二大隊及搜索隊第四第五中隊ヲ成ルベク速カニ追及セシメラレ度

又馬匹モ一部ハ獨立混成編成ノ爲移管セラレタル由ナルモ將來當軍方面ニ於テモ馬匹ヲ必要トスル旨含ミ置カレ度 念ノ爲

(終)

配布先 第二課 第三課 兵 總

4

0007

秘

電報

110

一六二〇發
一六四六著
一七一五受
二〇三五結

次長宛

猛部隊參謀長

猛參電第七六七號

第五十一師團ノ廣東殘置部隊中搜索聯隊裝甲車中隊、牽引車及輜
重兵聯隊自動車大隊（三中隊編成）ノ車輛全部ヲ第二十三軍ノ補
給豫定トシテ保管轉換セラレタルヤノ噂アルモ眞否承リ度
右ハ建制部隊ノ儘殘置セラレアルヲ以テ其ノ教育實施竝ニ特種自
動車ヲ當地ニ於テ果シテ補填セラルルヤ否ノ問題ニモ大ナル影響
アリテ至難トシアルヲ以テ成ルべく現在ノ儘部隊ト共ニ「ニユ一

昭和一八二二

0008

ギニア「」に追送せられた

(終)

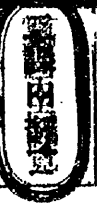
6

0009

電機

極秘親展

電報



作戦班

空班

加力班

昭和一八三六

三
五
一
六
五
〇
發
一
七
一
〇
〇
著
一
七
四
〇
〇
受
一
九
〇
〇
〇
點

猛 部 隊 長

通電先 總長 大臣

配布先 總長 次長 總務、第一部長 庶 第二部長

猛發電第六號

步兵第百十五聯隊ハ第八一號作戦「ラエ」輸送ニ當リ二月二十八日「ラパウ」發三月三日輸送船七隻、海上「トラツク」一ト共ニ驅逐艦八護衛海軍機十數機ニ護衛セラレ「クレチン」岬東南方約三〇哩ノ海上ヲ「ラエ」ニ向ヒ航行中八時十分ヨリ艦ネ三十分間ニ互リ大中型爆撃機ノ雷撃ヲ主體トスル敵百餘機ノ熾烈ナル同時攻撃ヲ受

0010

ケ護衛航空部隊ニ全艦船必死ヲ以テ防戦ニ努メタルニ拘ラズ艦
船ノ半數損傷ノ爲或ハ沈没シ或ハ航行ノ自由ヲ失ヒ全輸送船又急ニ
シテ爆沈セラレタリ 此ノ際同聯隊軍旗ハ輸送船大井川丸ト其ノ運
命ヲ共ニセルモノノ如シ 當時全輸送船廣範圍ニ分散混濘而モ運
シ救助ニ任ジ得ベキ驅逐艦ノ數少カリシニ拘ラズ露後約三時間在リ
現場附近ノ搜索救助ニ努メシモ敵ノ再度空襲ヲ顧慮シ急遽北方「ロ
ング」島附近ノ敵雷艇機ノ行動圏外ニ退避セザルベカラザリシヲ以
テ更ニ夜ニ入り驅逐艦三隻ハ再ビ現場ニ反轉急行搜索セシモ遂ニ
軍旗ハ輸送船大井川丸搭乗人員全部ト共ニ發見スルニ至ラズ
目下陸海軍協力鋭意搜索中ナルモ

右取敢ズ報告ス

(終)

0011

8

第三報

機

極秘親展

作戦

電

報

三一九

三三〇
三三〇
三三〇
三三〇

昭和一八三一九

猛 部 隊 長

送電先

總長 大臣 第十八軍司令官

参考

第五十一師團

猛電第二三三三號

51D

歩兵第百十五師團軍旗ノ消息ハ其ノ後目撃者ノ談話ヲ綜合考察ス
 ルニ三月三日八時三十分頃大井川丸直撃彈ヲ蒙リ火災ヲ起シ砲隊
 長以下一七名（砲隊長旗手及衛兵一二名船員三名）軍旗ヲ一時「カ
 ッター」ニ移乗折疊舟一隻ヲ以テ護衛シ北方ニ向ヒ力漕中隊銃爆

醫ノ爲隊長旗手共ニ戰死シ船舶工兵第八隊小崎中尉（口ヲ貫
通セラレ言ヲ發シ得ズ）代リテ之ヲ維持シ更ニ前進中四日七時
頃再度「ボーイング」ノ攻撃ヲ受ク各舟艇共ニ破損離散シ軍旗
ノ在リシ「カッター」ハ爆撃ヲ受ケ爆碎セラレシモノノ如ク目撃
者（歩兵第百十五隊隊附兵長）ノ言ニ依レバ直後舟ノ影ヲ認メザ
リキト軍ハ極力現認者ニ就キ調査スルト共ニ引續キ飛行機及舟艇
ヲ以テ搜索方手配中ナリ

（終）

第三報

極秘

戰

電

報

三二六

一〇二一
二二二二
〇一〇〇
〇五〇〇
點受著發

猛部隊

參謀長

昭和一八三三〇

通電先 軍司令部

參考 次長 猛 「ラバウル」 剛

猛參電第三二三號

二十四日「マダン」到着後諸方面ノ現地視察及報告等ヲ綜合シ當方面ノ一般狀況ヲ報告ス

第二十師團

(1) 主力ノ「マダン」附近ニ向フ前進ハ大發輸送及行軍ニ依ル外海

「トラ」輸送ニ依リ著シク促進セラレ四月十日ニハ「ハンサ」
四月二十日ニハ「マダン」ニ各々其ノ後尾ヲ以テ到着スル豫定
ナリ

(2) 「ハンサー」 「マダン」道二五〇軒師團長ノ陣頭指揮ニ依リ豫
想以上ニ進捗シ概ネ四月三日ニハ自動車道タラシメ得ル豫定ナリ
(3) 「マダン」 「ラム」河谷間作戦道路ハ略々準線ノ決定ヲ終リ
總工事量概ネ四〇萬日ヲ以テ自動車道ヲ概成シ得ル見込ニシテ
四月三日迄ニ「マダン」 「バア」間完成開通スベシ

② 第四十一師團ハ其ノ一部ヲ以テ「ブーツ」附近ヨリ「セビツク」
河谷「マライ」 「ブーツ」西南方約一〇〇軒附近ノ敵飛行場竝ニ
該地附近要域攻略ノ爲堅實ナル作戦ヲ準備中ナリ 將來同方面ノ
重要性ニ鑑ミ「ワウ」攻勢ノ爲第四十一師團ヲ期待シ得ザルベシ
ト判断ス



「ハンサ」ヨリ「ボガジャム」ニ至ル間ノ地方ハ意外ニ開發セラ
 レアリテ人口比較的稠密莫大ナル椰子林ノ外生獸約五〇〇〇、豐
 富ナル野菜アリ。又「サゴ」椰子ノ處理、漁獲ノ擴張及野菜竝ニ
 陸稻土民ノ耕作セルモノ一穗ニテ三五〇顆ヲ有スルノ増殖等ニ依
 リ現地自活ノ礎地大ナルモノアルハ大イニ意ヲ強クスル所ナリ
 之ヲ要スルニ諸部隊ノ努力ニ依リ軍ノ計畫ハ逐次具體化セラレタ
 ルノミナラズ瘴癘不毛ナル「ニューギニア」ニ對シ從來ノ認識ヲ
 一變シ將來ノ作戰ニ大ナル光明ヲ認メタル次第ナリ。然レドモ將
 來ノ作戰ノ爲更ニ左記事項ノ促進ヲ要スト思考セララル

(一) 自動車道開設ニ伴フ馬匹竝ニ車輛

自道車隊及燃料ノ翻期的増加特ニ「ブーツ」―「マライ」方面

ノ補給用自道車

(二) 沿岸輸送舟艇ノ増加

目下船舶工兵五、九ノ二隊ヲ合シ使用可能數四〇ニシテ少クモ
倍數タラシムルノ要アルベク部品ノ缺乏ニ困却シアリ

(三) 防空隊（高射砲機關砲短波哨戒機等）ノ増加

(四) 道路構築及架橋用資材

(五) 現地自活ノ爲所要機關勞力及資材取得

(終)

0017

14

第三編

作戰

極秘

電報

四	四	四	四
二	一	一	一
一	二	二	一
三	四	〇	三
五	〇	四	五
〇	〇	〇	九
點	受	著	發

昭和一八四二

猛部隊參謀長

通電先 剛

參考 次長 猛「ラ」

猛參電第三六五號

1810

「ニューギニア」作戰ノ特性ニ鑑ミ防空力強化ニ關シ研究ノ結果

左ノ如キ一案ヲ得タルニ付特ニ配慮相煩ハシ度

「現態勢強化ノ爲所要ノ防空部隊數量

(1) 「ダンピール」地區（「ウムボイ」「フィンシ」）

高射砲 二中隊、機關砲 二中隊 照空隊 一中隊

(2) 「ラ~~カ~~ル」地区（「ラエ」「サラモア」）

高射砲 六中隊 機関砲六 照空隊三

(3) 「マダン」ー「ラエ」道ニ高射砲五中隊 機関砲五中隊（大

橋梁）

(4) 「マダン、アレキシス」地区ニ高射砲六中隊 機関砲二中隊

照空隊二中隊

(5)? 「ハンサー」地区

高射砲二中隊 機関砲一中隊 照空隊一中隊

(6) 「ウエワク」地区（「ウエワク」「ブーツ」「マライ」）

高射砲四中隊 機関砲三中隊 照空隊二中隊

(7) 合計 高射砲二五中隊 機関砲一九中隊 照空九中隊

現有兵力

高射砲一四中隊 (四中隊火砲ヲ有セズ)

機關砲 三中隊 照空五中隊

增加希望兵力

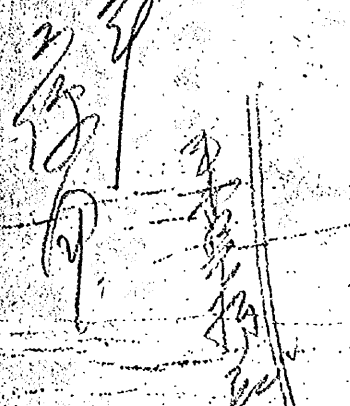
高射砲一一中隊 (外火砲充足四中隊)

機關砲一六 照空四中隊外ニ野戰防空隊司令部三

尚高射砲及機關砲他ニ以下四語不明ノ爲照會中

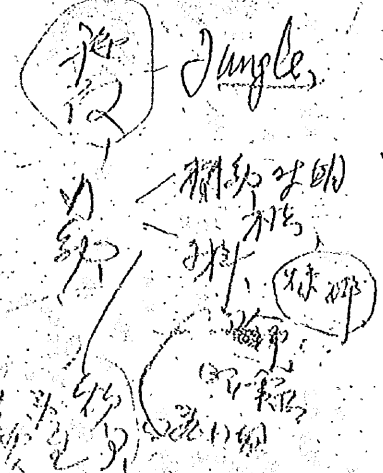
使用資材火砲ノミニテモ交付セラレ度

HAWAII
海軍航空隊



○ 電力
○ 燃料
○ 食料
○ 被服
○ 医薬
○ 器材
○ 兵隊

17



0020

極秘

USA

電

報

四一〇	九三〇
一〇一	六三〇
一〇七	四二〇
一〇四	〇〇〇
〇〇〇	〇〇〇
點受	著發

昭和一八四一一

通電先

次長

猛「ラ」剛

猛部隊

參謀

長

猛參電第四四八號（一部未著ナルモ取敢ズ配布ス）

「フィニスニル」横斷道路視察所見左ノ如ク報告ス

一 路線一帯ハ標高一千米トハ謂ヘ内地ニ於ケル所謂峡谷懸崖絶壁急
 斜面交錯シ晝尙暗キ大密林ニシテ物質主義者ノ眼ヲ以テスレバ自
 動車道構築ハ不可能ト判決スベシト言フモ過言ニアラズ

（以下一部再電要求中）

（以下一部再電要求中）

將兵一般ニ襲ニ侍從武官「マダン」御差遣ノ節該道路ノ完成期ヲ
問ハレタルニ甚ダシク感激シ一意速成ニ邁進聖慮ニ副ヒ奉ランコ
トヲ期シツツアリ

ニ敵ノ行動ヨリ推定スルニ敵ハ我が前進ヲ「マダン」「フィンシ
ユ」道ニ豫期シ該道ニ對シテハ極メテ銳敏ナルモ「ボガジヤム」
「ヤウラ」¹「コバ」道ニ對シテハ殆ド關心ヲ有セズ

「ボガジヤム」¹「フィンシユ」道（海岸道）ハ偵察ノ結果幅約
三米ノ廢道ニシテ自動車道ニ改修可能極メテ有望ナリ

ニ道路構築上最モ困難トスル所ハ補給ナリ急坂道ヲ搬送スル爲相當

ノ兵力ヲ割カレ作業兵力ヲ減少シ且給養粗悪ナリ

速カニ駄馬少クモ一五〇頭ヲ急送セラレンコトヲ望ム 多クノ作

業兵力ヲ投入スルノ困難又茲ニ存ス

四 又自動車道完成ノ際傾斜急峻ナル爲日産級ノモノニテハ攀登能力
乏シキヲ以テ比島又ハ馬來方面ヨリ強力ナル貨車ヲ輸送スルノ要
アリ

(終)

第三課

三急極救

電報

四	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十
十一	十一	十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十五	十五	十五
十六	十六	十六	十六	十六	十六
十七	十七	十七	十七	十七	十七
十八	十八	十八	十八	十八	十八
十九	十九	十九	十九	十九	十九
二十	二十	二十	二十	二十	二十
二十一	二十一	二十一	二十一	二十一	二十一
二十二	二十二	二十二	二十二	二十二	二十二
二十三	二十三	二十三	二十三	二十三	二十三
二十四	二十四	二十四	二十四	二十四	二十四
二十五	二十五	二十五	二十五	二十五	二十五
二十六	二十六	二十六	二十六	二十六	二十六
二十七	二十七	二十七	二十七	二十七	二十七
二十八	二十八	二十八	二十八	二十八	二十八
二十九	二十九	二十九	二十九	二十九	二十九
三十	三十	三十	三十	三十	三十

昭和一八四二

次長宛 猛部隊參謀長

猛參一電第四四八號(註 四月十一日配布ノ不足分)

第一項(以下一部再電要求中)ニ挿入セラレ度

作業部隊特ニ經始ニ任ゼシ者ノ勞苦ニ對シテハ讚嘆敬服ヲ禁ズル能ハズ
 目下歩兵二大隊、道路隊二隊、工兵一聯隊ハ銳意作業中ニシテ四月
 二十日頃迄ニハ「バイ」ー「アヤウ」間ヲ完成シ「アヤウ」!「ヤ
 ウラ」間ヲ概成シ得ベシ

第三課

秘

電報

一〇〇六〇〇〇
一〇七三〇五〇
三三三〇五〇

猛部隊參謀長

昭和一八四一四

通電先 次長 關係部隊

猛參電第五〇五號

第二次「ハンサー」輸送揚陸ハ二回ニ亘ル敵爆撃漏隙ノ攻撃ニ依リシ
 とい丸ハ泊地ニ於テ航行不能ニ陥リ又近來稀ニ見ル悪天候ノ爲大
 渡動艇「ヤンマー」一船合計敵二〇隻ノ損耗ヲ生ゼルモ現地部隊ノ努
 カニ依リ概ネ二十四時間ヲ以テ搭載部隊及重材料全部竝ニ軍需品大
 部ノ揚陸ニ成功シタル外いんであ丸船隊ノ高射砲ハB一三七一機

ラ 擧 際 セ リ 斯 カ ル 困 難 ナ ル 揚 陸 ヲ シ テ 成 功 ニ 導 カ レ タ ル 御 指 導 御
協 力 ニ 對 シ 深 甚 ノ 謝 意 ヲ 表 ス (終)

第三課

作戦秘

電報

一九五〇年七月五日
一九五〇年七月五日
一九五〇年七月五日
一九五〇年七月五日

猛部隊參謀長

昭和二十八年七月一日

通電先 次長 剛 河「シロガネ」飛行園?

猛參電第八四二號(註) 名宛翻譯不能 照會ノ爲遲延)

「剛(洋)宛」

本八日海「トラ」直衛中ナリシ飛行第十一戰隊第一中隊ノ二機

(小林中尉 小田軍曹操縦)ハ「カルカル」島西方約二〇浬ノ海?

岸ニ於テ船團ニ近接シ來レル「ボーイング」一機ヲ發見之ヲ攻撃

中七時五十分小田軍曹機ハ果敢敵機ニ體當リヲ加ヘ「ボーイング」

ハ焰ヲ上ゲ海中ニ墜落シ小田軍曹機モ又空中分解シ壯烈ナル戦死
ヲ遂グ
小田軍曹ノ果敢ナル行動ニ對シ深甚ノ敬意ヲ表ス

(終)

第三編

作戦 至急秘親展

電報

共一六一六
一七六一六
〇〇六一六
〇六一六
一〇九二
點受著發

昭和十八年五月

猛部隊參謀長

通電先 庶務課長 剛 宇都宮師團 陸軍省 東京師團

猛參電第三〇號

第五十一師團ハ現ニ缺員多キノミナラズ該方面ノ戰況ハ今後逐次活
激化スベク今回長期服務者交代要員三九四〇名及八一號作戰等ニ依
ル缺員補充要員三三五一名ヲ至急コラバウルニ派遣方手配相成度
尙派遣狀況逐一通報煩ハシ度

Handwritten scribbles and numbers

(終)

第二〇〇

軍機極秘親展

電報

共一七

一八〇〇
一九〇〇
二〇〇〇

昭和一八年一月七

通電先 剛猛連

参考 次長

猛參電第五三號

「剛（猛連）宛」

軍ハ「サラモア」方面ノ戦闘指導ニ關シ左ノ如ク企圖シアリ

一攻撃シ來ル敵ニ對シテハ反撃ヲ以テ大打撃ヲ與フ

而シテ第五十一師團主力ヲ以テスル反撃ハ六月中旬以降ト豫

定ス

猛部隊長

ニ右第五十一師團反撃ノ後據タラシメル爲第二十師團ノ歩兵一
大隊ヲ機動ニ依リ六月上旬中ニ「ラエ」ニ又第四十一師團ノ
歩兵二大隊ヲ舟艇機動及行軍ニ依リ六月下旬乃至七月中旬ノ
間ニ「ラエ」ニ進出セシム

右ノ緊急處理ニ伴フ「マダン」地區ノ補給ニ關シテハ方面軍
ノ援助ニ依リ遺憾ナキヲ期スルモ萬止ムヲ得ザル場合ハ一時
絶食ヲモ豫期ス

ニ取敢ズ方面軍ノ措置ニ御願ヒ致シ度ハ海上「トラツク」月二回
ノ「マダン」輸送、舟艇修理品ノ急速ナル前送、中折舟（機
付）六〇隻ノ補給等トシ、細部ハ二十一日出頭ノ上報告ス

（終）



秘

電報

共	共	共	共
一	一	一	一
三	四	三	三
〇	〇	二	〇
〇	〇	二	〇
八	〇	二	〇
二	三	〇	〇
五	〇	〇	〇
點	受	著	發

昭和一八六一八

猛部隊參謀長

通電先 次長 剛 猛連

猛參電第九六〇號(一部再電要求ノ爲遲延ス)

「ハンサ」ー「マダン」道ハ四月以降連日ノ降雨ノ爲破壞シツツ
 アリ特ニ「ウリンガン」「ムギル」間河川ノ橋梁流失ノ爲今尙使
 用シ得ズ

五月十一日ノ狀況左ノ如シ

「ハンサ」ー「クミル」河(「ウリンガン」東北一〇料)間ハ降

雨時ニ於テモ貨車ヲ通ズ

「クミル」河橋梁四回流失五回目作業中「リボダル」河（「ム

ギル」東北二〇籽）橋梁二回流失三回目作業五月三日完成

「ギラギル」河（「ムギル」東北一〇籽）橋梁二回流失目下第

三回ノ作業中 五月十二日完成ノ見込ナリ

「テモアン」河（「レンピ」北方）橋梁一回流失 五月六日作

業中ナリ 「レンピ」河（「レンピ」南方）橋梁二回流失 三

回目作業中ナリ

ニ第二十師團ハ降雨毎ノ橋梁流失ニ鑑ミ雨期施設ノ本格的架橋ヲ

中止シ取敢ズ第二次「ハンサ」上陸部隊ノ行軍ニ支障ナキ如ク

應急的修理又ハ補助渡河設備ヲ實施ス
ニ到著セルモノハ獨立工

兵第三十七聯隊主力ノ他ハ「マダン」ニ至ラシムル筈（終）

成ヲ待ツコトナク行軍ニ依リ「マダン」ニ至ラシムル筈（終）

極秘

電報

六	八	八	六
一	〇	〇	〇
四	八	七	〇
三	一	〇	〇
〇	五	〇	五
點	受	著	發

猛部隊長

通電先 總長 剛 猛連絡所

猛電第九號(其ノ六以下未著ナルモ提出ス)

次期作戰ヲ願慮シ左ノ件處理相成度

左記

一人糧七月末日迄特ニ輕糧ニシテ榮養ニ富ミ山地戰給與ニ適スル

糧秣送付方取計ハレ度

人一基數、馬約〇、〇五基數、一箇月分ヲ各々「サラモア」地

昭和一八六二

31

0034

四ニ樂糧シ得ル日夕補給準備手配考慮相煩ハシ度

ニ其ノ希望品種、割合左記ノ如シ

人糧ハ特種携帶口糧及陸海口糧 四〇

乾糧池及携帶糧 二〇

飯ノ備詰（又ハ乾飯ノ備詰）四〇

馬糧ハ壓搾馬糧トシ別ニ壓節三萬本 榮養食六〇萬箇追送セ

ラレ度

三飯ノ備詰ハ肉入油飯トシ榮養價值十分ナルモノヲ充用ス中央ニ

於テ研究ノ上試作セラレ度意見ナリ

四尋常糧秣ハ前項ノ外ニ一基數一箇月準備アリ度

五右ノ外飛行機ニ依ル補給ヲ願慮シ落下傘及物資投下器差當リニ

萬分ヲ「ウエワクル」又ハ「ハンサー」ニ補給相成度

（以下未著）

0035

報
報

電
報

總
長
宛

ニ	ニ	一	一
〇	〇	七	六
一	〇	〇	〇
三	九	八	〇
ニ	一	一	〇
〇	〇	〇	五

猛 點 受 署 發

昭和一八五二〇

猛
部
隊
長

猛參電第九號 其ノ六（電註 其ノ五迄五月十九日配布スミ）

六別ニ「マダン」一「ラエ」間ノ潜水艦輸送ヲ願慮シ米二〇疋入
麻袋五千枚ヲ成ルベク速カニ「マダン」ニ補給セラレ度

（終）

秘

電報

二	二	二	二	二
二	二	二	二	二
一	一	一	一	一
六	三	二	一	一
三	四	五	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇

昭和一八五二二

猛部隊參謀長

通電先 基河

參考 次長 剛(猛連洋二船團)

猛參電第一二七號

五月二十日二十時三十分「アレキシス」東北約二軒ノ海上ニ於テ
 「マダン」ヨリ「ウリンガン」ヘノ歸航舟艇隊ハ敵爆撃機一機ノ攻
 撃ヲ受ケタリ其ノ狀況左ノ如クニシテ敵機ハ最近夜間攻撃及偵察
 ヲ重視スル傾向アルニ付月明下舟艇機動ニ於ケル對空行動ニハ機

機ノ急速停止及對空射撃準備等特ニ注意スル如ク指導アリ度

一「スコパール」晴レ急ニ月明トナルヤ敵機ハ百米ノ高度ニテ先ツ

爆撃シ次ニ銃撃ス

ニ舟艇ハ急遽分散シタルモ故障三（内一ハ今尙行方不明）死傷者

若干ヲ生ズ

（終）

第三號

機

作
電

電報

通電先剛 猛連

參考次長

猛部隊參謀長

猛參電第〇〇號(宛名照會為遲延ス)

軍司令官「エ」方面ノ戰鬪指導ヨリ十九日正午無事

猛頭山ニ歸還ス(青津參謀隨行)

昭一八、五、三〇

五二九

一六〇〇發
一五〇〇著
二〇〇〇受
二三三〇点

(終)

秘

電報

〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇

昭和一八年三月

陸軍部 陸軍参謀長

通電先 次長 剛 白銀

猛撃電第三〇六號

「剛（洋、猛、連）砲」

「五月十一日「ワイムリブ」（「マダン」南南西七〇軒「ラム」河

左岸）附近ニテ第二十師團偵察隊ニ急襲射撃セラレタル濠洲軍監

視兵（無標ヲ有ス）ノ所持セル日記ニ就キ判明セル事項左ノ如シ

(1) 「ベナベナ」ニハ情報中心機關アリ

37

0040

人員資材ハ飛行機ニ依リ「モレスビー」ヨリ輸送セラレ「ベナベナ」ヨリ各地ニ分遣セララル

「ワイムリブ」監視隊ハ指揮官「ラフテイ」駐屯ス

(ロ) 「オング」(「ラエ」西西北一〇〇軒「マーカム」河右岸)ニ

ハ「ベナベナ」ヨリ派遣セラレタル情報機關ヲ見ル懸機ヲ有

スモノト判断セラル

(ハ) 「チンブ」(「ベナベナ」西方六軒)「ベナベナ」間及「ブンジ」

「マダ」西南方八〇軒「ワイムリブ」間ニ各無線連絡ア

リ

ニ?
「チンブ」「ブンジ」間ニハ情報機關アルモノト判断セラル
土民ノ言ニ依レバ「ブンジ」ヨリ北方「ラム」河ニ沿ヒ有線通信
アリ「タシアイタ」(「ブンジ」北方「八軒」附近ニ監視部隊
アルモノト判断セラル(第二十師團ヲ偵察隊報)(終)

第二艦

極秘

作戦

200

B

電報

三三三
一一一
一〇〇
八三二
二〇〇
點受著發

猛部隊參謀長

昭和一八六一

通電先

次長 剛 猛連絡所 第四船輸司 第二船船團
基 船舶工兵第八聯隊

猛參電第三三八號

第二十師團ハ「ラエ」増援部隊ヲ海路急派ノ爲「ロジンイング」
（「ボカジン」東方一四〇軒）ニ據點占領ノ目的ヲ以テ歩兵一小
隊ヲ大發ニ分乘二十三日夜「ランプト」（「ボカジン」東方
七〇軒）出發現地ニ赴キ占領セル所「ロダイング」「セオ」附近
ニハ敵監視隊潛入シアリ

39

0042

大發ハ翌二十四日夕同地出發「マダン」ニ歸行中二十一時頃敵機
ノ攻撃ヲ受ケ二隻共沈没シ戦死傷一二ヲ生ゼリ同地附近ハ最近敵機ノ哨
戒頓ニ嚴ニシテ晝夜ヲ通シ毎日五回内外敵機飛來ス 單トシテハ
三十日更ニ兵力ヲ増加シ諸敵推進地點ヲ覆滅シ據點確保ニ善處シ
アル所ナルモ將來諸計畫策定上参考ノ爲判明セル狀況取敢ズ電報
ス

(終)

0043

40

三
三
三

極秘

電報

六 六
三 三
一〇〇二
四八六三
二一〇〇
〇〇五〇
點受著發

昭和一八六三

猛部隊參謀長

通電先 次長

參考 剛基

猛參電第四三三號

步兵第百十五聯隊軍旗ハ聯隊長之ヲ奪持シ五月三十一日潜水艦ニ依リ「ラバウル」ヨリ「ラエ」ニ安着セラルル八一號作戦「ラエ」輸送遭難時ヨリ始メテ仰グ軍旗ニ將兵ノ志氣頓ニ昂揚セリ

(秘)

41

0044

(第三課)

日 語 秘

電

報

六	四	四	一
一	〇	〇	一
〇	七	一	四
五	四	五	三
五	〇	〇	〇
隊	監	受	署

猛 部 隊 參 謀 長

昭和一八六四

通電先

次長 剛洋

猛 連絡所

猛 參電第四四二號

18A

最近「ベナベナ」「ハーゲン」地方ニ敵現出シ特ニ飛行場整備顯

著ナリ 飛行場ハ現在何レモ使用シアラザルモ完備セバ有力ナル

根據飛行場ニ適スルモノト認ム

其ノ狀況左ノ如シ

「ハーゲン」東北方四〇軒ニ飛行場三

30

「ウイルヘルム」西南ニ飛行場四

「カイナズ」西方ニ飛行場二

「ベナベナ」ニ飛行場二（炎上飛行機偵察）

「ベナベナ」西南方一〇軒「ガロカ」ニ飛行場設定中ナルモノ

ノ如シ

別ニ諜報ニ依レバ「ベナベナ」ニハ飛行場三アリ

「ベナベナ」「ハーゲン」地方ニ於ケル交通路ニ斷シテハ猛

電第二九〇號ノ如シ

但シ飛行機ノ偵察ニ依レバ「ベナベナ」附近「プバツリ」河ニ

ハ未ダ揚陸施設ヲ見ズ

三 「ペナペナ」ノ敵部隊ハ第三師團ニ屬スルモノノ如ク「ハーゲン」ニモ警備隊アルモノノ如シ（剛報）
要スルニ本地方ノ飛行基地ハ遠クハ「マダン」「ウエワク」ヲ確
實ニ其ノ制壓權ニ收メ近クハ地上部隊ト相俟ツテ側背「マダン」
ヨリ「ワウ」ニ向フ作戦路ヲ制スル要機ヲ備フルモノニシテ軍ハ
大ナル關心ヲ持チアリ

（終）

昭和十一年六月

電報

次長宛

猛參電第四六八號

六四

猛部隊參謀長

一一一
二六六
三三三
〇〇〇
點受著發

昭和一八六五

六月一日敵B-124、四機ノ（一語不明）西飛行場附近ニ投下セ

ル爆彈（五〇〇斤一二）ハ時限爆彈ヲ混シアリ

一箇ハ約十一時間後ニ一箇ハ四〇時間後ニ爆發セリ

（終）

至急極秘

電報

報

4/10

六

一〇〇〇
四〇〇〇
五〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇

猛部隊參謀長

昭和十六年

通電先 總務部長 剛

猛參電第四八五號

參電第八一五號（獨立混成第二十一旅團ニ關スル件）返

獨立混成第二十一旅團各部隊ノ狀況左ノ如シ

(1) 在「ニユーギニヤ」

旅團司令部 八三

歩兵第七十聯隊 一八六

砲兵隊 一〇（八一號作戰輸送車上陸者）

工兵隊 一三六

通信隊 四

野戦病院 五一

以上在「ホボイ」(「ラエ」東方三四軒)

高射砲隊在「ウエワク」 一六二

計 六三二

(2) 在「ニューブリテン」「ラバウル」

旅團司令部 一三一

歩兵第百七十聯隊 一〇七二（但シ將校以下八〇〇名ハ主

船工兵聯隊人員不足ノ爲大變ノ取扱教育中ニシテ獨立混成第

百十九旅團ハ軍隊區分ニテ船舶工兵第八聯隊ニ轉屬セリ）

戰車隊 一一八

砲兵隊 二八二（但シ内一五〇ハ「ラバウル」防空部隊

要員トシテ派遣シ其ノ他ヲ「ラエ」向ケ轉進中 「ラエ」轉

進者ハ潜水水艦運砲筒輸送ニ依リ十五榴四門及十榴八門ヲ以テ

臨時野戰重砲兵隊ヲ臨時編成スル豫定）

工兵隊 四

通信隊 六五

野戰病院 三三

2

計 一七〇五

以上ノ内戦車部隊ヲ除ク外何レモ残留隊ニシテ一般ニ第四項大鳥

島派遣部隊ヲ除ク

(3) 自動車部隊ハ北部佛印第二十一師團長ノ指揮下ニアリ

(4) 大鳥島派遣部隊人員概数

歩兵第七十聯隊第二大隊 六一三

聯隊砲小隊 二八

速射砲小隊 二二

有線分隊 一一

野戦病院 一〇

計 六八四

(5) 現在内地ニ補充請求セル人員ニ關シテハ別電ス

0052 4

日
秘
用

電
報

通電先 次長 剛基

濠參電第四九〇號

	六	六	六	六
濠	一	〇	〇	〇
部	五	二	〇	〇
隊	〇	五	六	〇
	點	受	著	發
參謀長				

昭和一八六七

「フイニステル」山系道路構築状況、二十五萬分ノ一圖參照
 現在「ボガジャム」ヨリ二三軒（「ヤウラ」東南二軒附近）迄自
 動車ノ通過可能
 獨立工兵第卅十世、三十七聯隊及歩兵作業部隊ハ爾後「マブルグ」
 （「ヤウラ」東南）三軒）迄ヲ一齊ニ作業中ニシテ六月二十日頃

50

0053

迄ニ概成スル如ク部署シアリ

柳川支隊本部「クワトウ」ニ第四工兵隊司令部ハ「ヤウラ」ニ在
リ構築資材ハ補給順調ナリ現在作業箇所ハ最難所ニシテ「マブ」
以東ハ比較的構築容易ナリ

軍司令官ハ六月中旬初メ現地ヲ視察セラルル豫定ナリ

基部隊ハ猛參謀長ニ傳ヘラレ度

(終)

51

0054